



GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌

平成 28 年度「軽井沢写真コンテスト」作品より



グランプリ 「厳冬の輝き」 佐藤 胸勝氏



準グランプリ 「初冬の朝」 土屋 芳孝氏

Contents

- 1 対談
 - 「軽井沢のウェルネス環境を、ツーリズムに!!」 2p
- 2 軽井沢の話題あれこれ…………… 5p
 - 「信州デスティネーションキャンペーン」
 - 「日本の旬 信州」
 - 「『第1回 ウエディングアワード』開催」
- 3 Ruiza ちゃん取材日記…………… 6p
 - 「軽井沢ウィンターフェスティバル 2017」
 - 「バリアフリー&エコ・ツーリズム
(伊勢・鳥羽研修)」
- 4 2016 年度委員会事業報告…………… 7p
- 5 軽井沢 information…………… 8p

おめでとう!!

男子カーリングチーム・SC 軽井沢クラブ

平昌オリンピック出場決定!!





Special Interview

1 「軽井沢のウェルネス環境を、ツーリズムに!!」 【鼎談】



軽井沢観光協会は、標高 1,000m で高原特有の気候や自然を有する軽井沢が、脳の活性化や心身の健康に適する場所であることを踏まえ、軽井沢観光ビジョン『美しい村（心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する）』を掲げ、軽井沢スタイルのウェルネス・ツーリズムを推進しています。そこにはキリスト教精神が息づき、清潔で品格のある避暑地・別荘地であること、先人が豊かな自然に遊び“屋根のない病院（天然のサナトリウム）”と謳い 130 年の別荘文化を育んできた歴史的・文化的な背景も考慮しています。私たちは、このウェルネスを上位概念とし次代の観光まちづくりに

資するため、今後さらに“軽井沢らしいスタイル”として進化させ、様々なジャンルで活動している会員に、ウェルネスを切り口としたプログラムや商品の開発を促し、それらを一元的に管理し、ターゲットとする顧客に訴えかけて行くことを計画しています。

そこで今回、軽井沢ウェルネス・リゾート・スタイル推進のノウハウを得るため、その概念とそれに付随する五感への作用（五感療法）を研究している横倉氏と、健康を高度な IT 技術により解析、コンサル事業に生かしているベンチャー企業役員の小泉氏から、軽井沢におけるウェルネス事業の可能性について伺いました。

横倉恒雄氏（医療法人社団健人会横倉クリニック・健康外来サロン院長）中
小泉泰郎氏（株式会社 FINC 代表取締役副社長 CFO 兼 CIO）右
土屋芳春（一般社団法人軽井沢観光協会会長）左

（文中敬称は略させていただきます。）

【健康と五感療法】

（土屋）五感療法的見地から軽井沢の環境は心身の改善に適していますか。

（横倉）軽井沢は、風、空気、空、山々、森林、水、文化など他とは全く違う環境を有し、特に軽井沢固有の高質な文化性は私の研究している五感療法に適していると考えます。健康の捉え方は多様ですが、軽井沢はそれを卓越した大きな意味での定義が必要でしょう。人はその地の雰囲気や空気を体で感じ、そのことは健康に大きな影響を及ぼします。幸いに軽井沢駅に降り立ち感じる良質な軽井沢の風と空気感、雰囲気は五感を刺激し元気を増す効果があります。もちろん科学的データ取得は重要ですがエビデンスは結果論であり、そこを目的にするのではなく、健康の主観的概念を出発点としたいところです。

（土屋）先生の研究されている「五感療法」と軽井沢の環境とのマッチングはどうでしょう。五感を通した治療力とは。

（横倉）私は元来脳の研究をしてきました。脳は人の生命力全てをコントロールすることから、脳の健康度を高めることで高度な健康的日常生活を送れるのです。その脳にアプローチできるのが五感ですが、脳に蓄積された外的情報（ストレス等）を抑制して発散することが健康の第一です。質の高い軽井沢の環境は五感を経由し、脳ストレス発散効果に期待できます。実はそれ以上に軽井沢到着時に感じる第六感は何によりの財産です。人は強いストレスにより防衛反応が強くなり抑制不能に陥り不健康になる。軽井沢は良質な環境を有しているため、五感療法活用により心身機能改善効果が最も見込めます。

（土屋）ストレス発散に五感が作用し治療力増加となる、ことということでしょうか。軽井沢での経験と滞在時間も重要ですね。

（横倉）殆どの現代人は日常生活を理性で活動していますが、先程の自然環境に加え五感に訴えるためには軽井沢のような自然と適度な都市機

能も必要でしょう。私の患者の多くはストレス・ガード（鎧）が固く重く、最初から戦うモードで来ます。軽井沢は到着した瞬間に鎧が溶け（取れ）気持ちが高揚します。鎧が取れば鈍くなっていた五感が働き出します。それが重要なポイントです。身体が軽井沢の自然に同化する、ということでしょうか。ストレス度は個人により異なるので、経験する内容や滞在時間はそれぞれです。但し、私は軽井沢では時計を外してください、と促しています。

（小泉）旅はワクワク感を向上させますが、軽井沢へ向かう時の昂揚感が特別で、帰宅時に徐々にマインドが下がる、という経験もしています。

【気候療法と転地効果】

（土屋）軽井沢は“気候療法”に適する場所で、特に標高 0m から 1,000m に移動する転地効果に期待し、ウェルネスをツーリズム化。“健幸”志向の強い創客戦略を立てています。



（小泉）私の敬愛する日本を代表するスキーデモンストレーター我満嘉治さんに教えていただいたのですが、同じような解釈では、標高差が大きいスキーは日に何度も転地効果を経験できるそうです。その効果として身体機能増強はもとより適度な緊張感と身体を使うことで脳への刺激となり、気分爽快感や五感刺激が高くなる。そのようなことから欧米では高級なスポーツの領域に入ります。山岳トレッキングでも内容により効果は得られるでしょうが、軽井沢を起点に高度の違うアクティビティーが愉しめるツーリズムを考えても良いでしょう。海外ではダボスやアスペンは車をブロックし、安全で健康的なリゾート空間を提供するという都市の意思が明確です。またレジャーの楽しみ方が豊かで、時間を制約せずツーリストが自然体で楽しむことができるシーンが用意されています。

（横倉）近年“量”から“質”へとレジャーにおいても急速な変化が見られます。そこで重要なのが地域の文化度。スポーツ文化としてもその蓄積があり、身を置きたくなる良質な空間と文化が軽井沢には整っています。

（小泉）ニセコは質の高い長期滞在型ホテルが多く、スキー指導員は英語もできてハイレベルです。客単価の高い地域経営戦略は参考になります。リゾートは望む層の顧客満足度を高めることが至上命題でもあるからです。

【ウェルネスは良質な雇用環境を生む】

（土屋）最近、雇用に対する企業の意識変化があり、また、当協会も加盟するウェルネス経営協議会には大

企業や異業種参入、ベンチャーなど多彩な企業や起業家が集まっています。

（小泉）ウェルネスはこれからさらに発展する領域で、先日経産省により「ホワイト 500（健康増進を進めている優良企業）」が認定されました。近年企業は人材の確保と保持が命題で、社員健康管理に重点を置きます。従業員の心身が優れ、モチベーションが上がり、結果として企業活力、生産性、業績が上がるという構図になるからです。最近は病理に侵される前の心身変化の予兆を感じた段階で対策を講じる企業が増えています。一方、ウェルネスは大企業に限らず様々な分野からの参入が相次ぎ、大きくネットワーク化されるでしょう。自治体も域内の健康戦略は存在意義にも直結することから、様々な面で連携が深まるものと思います。

【軽井沢のウェルネス戦略】

（土屋）「軽井沢らしい」ウェルネス・リゾート」を確立する上では、科学的なデータの取得分析が必要と考えます。“軽井沢スタイルのウェルネス”を推進するための行動は。

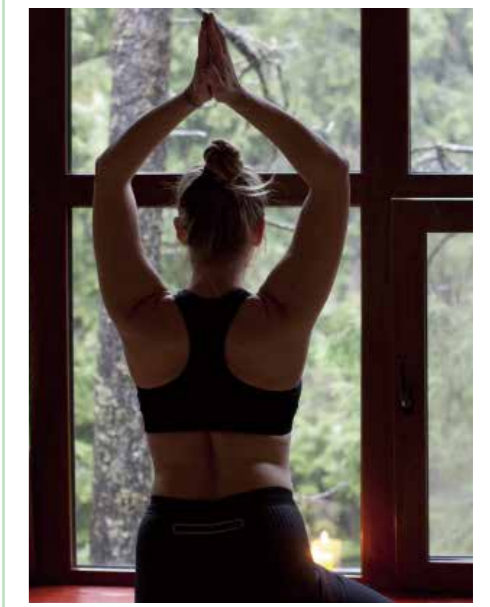
（小泉）軽井沢は高原気候、自然の恵みというウェルネスに適する背景は十分あり、現状でも様々な研究成果や論説を得ることができます。他方で憧れ感やハイ・ソサエティーなリゾートの重要性も語らなければなりません。海外の先進リゾートでは別荘民と住民、観光客が同じ水準で保たれ、“まちづくり”に統一感があります。

例えば一概に民泊を否定するのではなく、高度な判断に基づいた高級別荘滞在型の軽井沢スタイルの提案ができれば良いですね。生活レベルの高さを感じる自然、衣・食・住など各種アイテムも豊富にあり、それを生かした創客は大切かと思えます。課題的には国際化に対する言語の問題があります。多言語対応の整備はもちろん、ツーリズムのテーマに則した専門性の高い語学力を習得する必要もあります。

（横倉）科学は先ず仮説があり、実験等プロセスがあり、実証されていきます。ウェルネスは個人の感性や身体能力や特性によるパーソナル性

が強いものです。しかし、軽井沢の環境は間違いなく感性に響き、人々をワクワクさせ元気にする場所であることは間違いありません。第六感で触れたように、軽井沢は自由で自然な時間を満喫できる場所である、というイメージが他との差別化ではないでしょうか。但し、自由な感性行動に伝えるために、ワンストップで受け入れられる整備も重要ですが…健康は主観的で客観的ではなく、あくまで気分が良い、ワクワクしたなどの感情が判断することで、それが脳や身体にも影響を及ぼします。今の科学技術では測定は難しい領域です。

（小泉）軽井沢の歴史や文化、環境や自然は他を圧倒する背景です。横倉先生研究の五感や六感に期待したいと思います。半面、当社では創造力と技術力により補う事業を進めています。人工知能を活用して、日常生活改善へのアドバイス、食事・身体運動効果等のデータ解析を瞬時に行う業務もあり、日々技術を更新しています。今、健康は医学的見地と現代的な科学的見地の相互連携が必要となってきています。差別化を図るためにも軽井沢町は地域特性を踏まえたビジネス感覚を持った行政運営は重要で、健康に関する分野では一つ大事なテーマになると思っています。同時に、確固なサービスレベルを維持し、健康を欲するハイエンドな客層をターゲットに、高質なサービスが提供できる場所であってほしいです。



(横倉) ハイエンドな客層は文化度も高く地域のまちづくりにも必ず生かされます。私は軽井沢のウェルネス推進について、研究領域である医学的見地からも協力をしたいと考えています。五感を研ぎ澄ますに絶好の場所であるからです。軽井沢のウェルネス・ツーリズムを事業化するためテーマを設けても面白いでしょう。例えば嗅覚、聴覚、触覚などを日ごとに設定しウォーキングで感じてもらう。回遊性が高まれば消費につながり、個人の感覚データを習得することにもなります。

(小泉) 現代人は五感能力が落ちてきた感覚があります。五感を研ぎ澄ますことは生命力維持にもつながりますね。例えば、気候変化から危険を予

知するなどの本能機能は、ウェルネスとしても大変重要なところですよ。

【先進地に学ぶウェルネスリゾート環境】

(土屋) 私どもはリゾート先進地である「ダボス」や「アスペン」を目標としています。ダボスは研究機関が多い一方、ウェルネスに適するプログラムやアクティビティが充実し、会議以外にも多くのレジャー客を受け入れています。

(小泉) 観光戦略で描く客層を受け入れるハードやソフトの環境づくりが重要です。例えばミシュランの星クラスのホテル、レストランの存在は大きいでしょう。当然アクティビティなどソフト

の充実も必須ですが、町全体として意識共有は図られているか、また、町のビジョンとしてどのような客層をターゲットとしているのか、そのための振興目標と計画がどのように進められているかが最も重要でしょう。町全体に理念が浸透していることが大切で、企業や研究機関も様々な地域状況や環境に合わせ進出している事例が多く見受けられます。

(土屋) 地域の存亡をかけたウェルネス事業を強化する各地の行政や産業に結び付けたい企業など、ウェルネス事業は華やかさを増しています。軽井沢の環境をいかに有効的にツーリズムに生かすか、問われる機会ともなりました。



軽井沢の話題あれこれ

「信州デスティネーションキャンペーン」

信州デスティネーションキャンペーンは、北海道から九州までJR6社が長野県や地元観光関係者と協力し、全国の旅行会社等の協力を得ながら、全国に信州を旅行先としてPRする国内最大級の観光キャンペーンです。

期間は、平成29年7月1日(土)～9月30日(土)の間です
キャッチフレーズは
「世界級リゾートへ ようこそ 山の信州へ」

長野県が「国内最高の山岳高原リゾートである」ことを発信し、世界級リゾートを誇りに、県民、町民が“おもてなし”の心をもって国内外の皆さんを迎えましょう。



(カウントダウン除幕式)

「日本の旬 信州」

キャッチフレーズは **～はじめての山歩(さんぽ)～**

JTBでは4月から9月まで信州デスティネーションと連動して、観光キャンペーン「日本の旬信州」を開催します。日本の魅力の再発見をテーマに各地の旬の魅力を掘り起こし、旅を通じて地域観光振興への貢献を果たすJTB最大の国内キャンペーンです。地域の人と連携し、着地型コンテンツの仕組みや仕掛けを将来に繋げ、持続的に地域活性化に貢献したいというものです。

「信州感動の瞬間100選」「おすすめの山歩きコース10選」等で信州の山々を散歩のような気軽さで楽しんでもらいたいという企画です。

『第1回 ウエディングアワード』開催!

当協会は、地域イベントへの積極的な参加や他団体・地域住民との連携を図り、ウエディング産業の認知と誘客や雇用創出という両面から地域貢献に資する活動をしています。今回のアワードはその一環として、軽井沢ウエディングの素晴らしさを訴求するため開催しました。ファイナルに残った会員施設のウエディングプランナー6名が、自ら手掛けた軽井沢らしい、思い出に残るプレゼンテーションを行い、約110名の皆様に感動の渦に巻き込みました。



グランプリは「軽井沢倶楽部有明邸・中村知代さん」の『言葉にならない想い』。中村さんは現在富山県に在住し、北陸エリアの新郎新婦が軽井沢で行なうウエディングをサポートしています。今回、生活スタイルが異なる地域のカップルのニーズを的確に捉え、軽井沢で挙式を行う意義や素晴らしさを伝えたこと、滞在型ウエディングの企画、その後の観光案内を加えた軽井沢を満喫できるプランの提案など、まさに軽井沢のリゾートウエディングを総合的に提案した点が高評価となりました。

軽井沢ウエディング協会幹事
 坂本行俊 (ホテルハーヴェスト旧軽井沢)



『横倉恒雄』氏
 (医療法人社団健人会横倉クリニック・健康外来サロン院長)

日大医学部卒、慶応大学医学部産婦人科入局(医学博士)。東京都済生会中央病院勤務後、1990年日本初の「健康外来」を開設し五感療法を確立、1998年「健康外来サロンを併設した横倉クリニック」開院。日経連載執筆、「心と身体が軽くなる本物のダイエット(実業の日本社刊)他著書多数。一般社団法人「健幸の達人の会」理事長等数々の団体役員も兼ねる。



(心の安らぎが健康の基本)



『小泉泰郎』氏
 (株式会社FiNC代表取締役副社長CFO兼CIO)

1963年生まれ。東大経済学部経済学科卒。ダートマス大学エイモスタック経営大学院経営学修士取得。1986年に日本興業銀行(現みずほ銀行)入行。1999年にゴールドマン・サックス証券入社。資本市場本部共同本部長兼公共セクターインフラユーティリティセクター本部長を歴任。ISAK 発起人他コンサルティング業務など多方面で活躍。東大在学中はサッカー部で主将を努めた。



(ウェルネスのIT技術は日々進化する)



軽井沢ウィンターフェスティバル 2017 【軽井沢・冬ものがたり】



昨年度のウィンターフェスティバルは11月26日から2月11日まで開催されました。その中の「軽井沢・冬ものがたり」では11月~12月のクリスマスシーズンを中心に、町内各所でのイルミネーション設置、軽井沢吹奏楽団クリスマスコンサート開催、軽井沢駅等でのキャロリング他多くのイベントを実施しましたが、特に「クリスマス・マルシェ」は2回開催し多くの皆様楽しんでいただきました。

「1回目」はウィンターフェスティバルのオープニングイベントとして11月26日軽井沢駅前本通りを半日通行止めにして、50店舗の出店参加により魅力が増したこともあり、約5000名のお客様の来場がありました。飲食・雑貨などの店、てのひらの会の手話コーラス、佐々木カンタによる炎のパフォーマンス、ピエール JUNの手廻しオルゴール演奏とバルーンアート、軽井沢キャロルのクリスマスソング、オープニング打上げ花火など多彩なイベントにより来場した皆様も大いに満足されたものと考えます。



「2回目」は高さ24Mのイルミネーションツリーでおなじみの「恵みシャレー軽井沢」を会場として12月17日の夕方から「クリスマスナイト・マルシェ」を開催しました。軽井沢中部小、軽井沢中学校の吹奏楽演奏で、来場された多くの方々と共に、クリスマスの楽しい一時を過ごしました。



「ウィンターフェスティバル」の企画運営は、「軽井沢・冬ものがたり実行委員会」など各イベント実行委員会で担い、その活動は春からすでに始まっているところもあります。まずは「自分たちが楽しめるイベント」を行うことを趣旨に、大変なこともあります「やりがい」や「誇り」、「参加者の笑顔をいただきたい」との思いで準備を進めています。関わりたい、あるいは関心のある方は是非ご一報ください。軽井沢の冬を賑やかにして多くの観光客や近隣住民の皆様にも温かいハートを届けましょう。



軽井沢・冬ものがたり実行委員会 事務局長 佐久間 顕

バリアフリー&エコ・ツーリズム（伊勢・鳥羽研修）



(バリアフリー観光は各地で積極的に取り入れている)

6月のホスピタリティー講演会(バリアフリーと聴導犬について)を受け、その先進地である『伊勢志摩バリアフリーツアーセンター』と、着地型観光で成功している『鳥羽市エコツーリズム推進協議会』に伺い、その活動について研修をしてきました。伊勢では、障がい者(高齢者含む)の求める観光ニーズに対し、その個人の程度に応じた施設やツーリズムを一元的に管理し、紹介しています。地域での“おもてなし”精神は、ハード、ソフトともに顧客満足度の高いものを提供する時代が到来し、整備程度により目的地化されない場合があります。この分野は市場規模が大きく、整備の遅れは大きな損失となります。

鳥羽は、地域の当たり前の生活文化を前面に掲げ、誘客につなげています。小さな産業が観光を通して商品化する、という実態を見るにつけ、軽井沢においても目に見えない宝石(魅力)の発見と磨きの重要性を体感した研修でした。

未来構想委員会・市場創造委員会共同開催

未来構想委員会

当委員会は、協会の将来像を研究するとともに、総務系の事業を主に担当しています。

観光ビジョン『美しい村』の訴求と、自然環境を活用した健康保養地軽井沢のタウンデザインを考えています。
観光戦略会議への参画:主に、観光総合力を高める組織について、並びに当協会が提唱する『美しい村(心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する=ウェルネス・リゾート)』の理解について懇談を進めてきました。

ホスピタリティー研修

鳥羽・伊勢の「バリアフリーとエコツーリズム」、商店街活性化について学んできました。



(ホスピタリティー講演会)

今年度事務局が6人体制となりましたが、年々高度化する観光事業には課題が残ります。

事業委員会

町内イベント連携・運営協力

- 若葉まつり(軽井沢ハーフマラソン、グランfond軽井沢、駅からハイク等)
- 紅葉祭り(軽井沢リゾートマラソン、ホリデーウォーク等) ウィンターフェスティバル(ホワイトクリスマス等)

ドッグツーリズム推進プロジェクトの推進

検討事項:受け入れ施設認可制度の研究・マナーモラルの啓発・関係機関(団体、大学、企業等)との連携・ツーリズムに関する基本知識(犬の習性、法則等)の共有・ドックイベント(エクストリーム等)の開催、軽井沢MAP制作、その他



(ドックイベント(エクストリーム))

組織強化委員会

当委員会では、軽井沢の基礎知識獲得による観光事業活用と軽井沢ファンの獲得などを目的とする「軽井沢Web検定」の実施、HPの管理、ウェルネス・ツーリズム等も含めた収益事業の研究を行っています。

軽井沢WEB検定の実施(2/5・6)

3級、2級試験の実施

観光協会ホームページの管理・運営(軽井沢写真部の開設)

- 年間アクセス数 87万5千人
- 年間閲覧数 400万PV

賛助会員の条件等の整備

ウェルネス関係団体等との連携
ウェルネス経営協議会への参加、ウェルネスアプリ開発への協力

新規収益事業の検討

講師派遣事業の研究、ウェルネスツーリズムの研究



(軽井沢WEB検定)

広報委員会

誘客宣伝物の企画・制作

ウォーキング・サイクリングマップの新規作成(3月に発行)

総合パンフ・案内マップの見直し

会報誌「グリーン・ブリーズ」の編集発行

8月に41号 4月に42号を発行

軽井沢フォトコンテストの実施

応募数42名 72点 表彰式 3月5日

3/4より3/12まで くつかけテラスにて公開

FM 軽井沢との連携

協会提供番組の放送「美しい村便り」毎週日曜日放送



(写真コンテスト表彰式)

市場創造委員会

当委員会は、MICE推進と他団体との情報交換、連携強化を主に活動しています。

G7 国土交通大臣会合への協力

16年9月24日~25日開催、KRCCとの情報共有、協力

エコツーリズムの推進

30年度設立予定の「エコツーリズム協議会」の次年度からの活動指針、遊歩道の視察

10月12日、13日に三重県鳥羽市エコツーリズム、バリアフリーセンター視察研修

17年7月からのJRDC 信州への参加協力

東京、大阪、名古屋、長野市での商談会及びキャンペーンと全国宣伝会議に参加)

他団体との連携と懇談

- 17年3月商工会、旅館組合との観光情報の交換開催
- 10月、日本経済同友会観光委員会との懇談会
- 6月、JTB及び日本政府観光局訪問、MICE情報交換
- 信州の旬事業(JTB主催)への参加協力



(軽井沢町議会との懇談会)

インバウンド部会

海外PR活動

香港・台湾・タイ・フィリピン

インバウンドセミナー

国内招聘受入事業

香港・台湾・中国・タイ・シンガポール・フィリピン・イタリア・ドイツ・フランス



(フィリピン商談会)

観光協会案内

中軽井沢観光案内所

軽井沢駅に隣接するくつかけテラス内にあり、観光客に限らず地元の方々への交通等のご案内やテラス施設のご案内を多くしております。



軽井沢観光案内所

軽井沢駅自由通路3階(北口)にあり、新幹線等列車が到着する度に多くのお客様が立寄られます。2010年頃からインバウンド(訪日外国人観光客)の増加によりその対応に追われています。日によっては8~9割がインバウンド客ということもあります。案内所では軽井沢での滞在を楽しんでいただくため、様々な観光情報や交通案内をわかりやすくご説明しています。



軽井沢観光会館

旧軽井沢メイン通りに面し、観光案内の他に展示スペースと会議室を有料で提供しています。また、メインエントランスでは軽井沢の四季を感じるディスプレイを心がけ、来館されたお客様が心地良く過ごして頂ける様、おもてなしの心でお迎えしております。

有料化粧室は安心して気持ち良く利用して頂ける様、細やかな清掃に努めていますので、是非ご利用ください。



事務局

局長以下、6名の職員で事務局を運営しています。「軽井沢町観光振興センター」内に事務局を置き、窓口での観光案内はもとより軽井沢観光を総合的に把握、様々な業務に対応しています。観光協会ホームページ及び発信方法に関するご相談は:

web.pro@karuizawa-kankokyokai.jp

WEBアドバイザー1名、火曜・水曜電話及びメールにて対応。事務局へお気軽にお立ち寄りください。



行事のご案内(春~夏) イベント情報は観光協会 HP(<http://karuizawa-kankokyokai.jp>) をご覧ください

行 事 名	期 間	公 式 H P
2017年 軽井沢若葉まつり	平成29年4月29日(土・祝) ~6月5日(月)	www.town.karuizawa.lg.jp/
○写真コンテスト ○芽吹きの軽井沢を歩こう ○軽井沢ハーフマラソン ○ジーロ・デ軽井沢 ○グランfond軽井沢 など楽しい華やかなイベント満載です。是非、春から初夏の軽井沢へお越しください!		

※最新情報は各行事とも公式HPをご覧ください